

シラバス

科目番号・科目名	(1) 職務の理解	
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるように指導する。	
項目番号・項目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
① 多様なサービスの理解	3	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険サービス（居宅、施設） ・介護保険外サービス
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ○居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ(現場経験のある講師の体験談等) ・ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・多職種・介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材(DVD)を鑑賞、グループディスカッションを行う。 (介護職が働く現場や仕事の内容、サービス提供現場の具体的なイメージについて)
(合計時間数)	6	
使用する機器・備品等	視聴覚教材 (DVD)・パソコン・プロジェクター	

シラバス

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援	
指導目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを、自覚し自立支援、介護予防と言う介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解させる。	
項目番号・項目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
① 人権と尊厳を支える介護	1	<ul style="list-style-type: none"> ・人権と尊厳の保持 ○個人としての尊重 ○アドボカシー ○エンパワメントの視点 ○「役割」の実感 ○尊厳のある暮らし ○利用者のプライバシーの保護 ・ICF ○介護分野におけるICF ・QOL ○QOLの考え方 ○ノーマライゼーションの考え方 ・虐待防止・身体拘束禁止 ○身体拘束禁止 ○高齢者虐待防止法 ○高齢者の養護者支援 ・個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法 ○成年後見制度 ○日常生活自立支援事業 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れた介護の目標や展開について、グループディスカッションを行う。
② 自立に向けた介護	1	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援 ○自立・自律支援 ○残存能力の活用 ○動機と欲求 ○意欲を高める支援 ○個別性／個別ケア ○重度化防止 ・介護予防 ○介護予防の考え方
通信形式	7	
(合計時間数)	9	
通信上限時間	7.5	
※面接指導※	0.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

シラバス

科目番号・科目名	(3) 介護の基本	
指導目標	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち、重要なものを理解させる。介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えると言う視点から支援を捉える事ができるようになる。	
項目番号・項目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1	<ul style="list-style-type: none"> ・介護環境の特徴の理解 ○訪問介護と施設介護サービスの違い ○地域包括ケアの方向性 ・介護の専門性 ○重度化防止・遅延化の視点 ○利用者主体の支援姿勢 ○チームケアの重要性 ○事業所内のチーム ○多職種から成るチーム ・介護に関わる職種 ○異なる専門性を持つ多職種の理解 ○介護支援専門員 ○サービス提供責任者 ○看護師等とチームになり利用者を支える意味 ○互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供 ○チームにおける役割分担 《演習》 チームケアについて、その重要性、役割分担など、グループディスカッションを行う。
② 介護職の職業倫理	1	<ul style="list-style-type: none"> ・職業倫理 ○専門職の倫理と意義 ○介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等) ○介護職としての社会的責任 ○プライバシーの保護・尊重
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	<ul style="list-style-type: none"> ・介護における安全の確保 ○事故に結びつく要因を探り、対応していく技術 ○リスクとハザート ・事故防止、安全対策 ○リスクマネジメント ○分析の手法と視点 ○事故に至った経緯の報告 (家族への報告、市町村への報告等) ○情報の共有 ・感染対策 ○感染の原因と経路 (感染源の排除、感染経路の遮断) ○「感染」に対する正しい知識
④ 介護職の安全	1	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職の心身の健康管理 ○介護職の健康管理が介護の質に影響 ○ストレスマネジメント ○腰痛予防に関する知識 ○手洗い・うがいの励行 ○手洗いの基本 ○感染症対策 《演習》 実際に感染症対策を踏まえた手洗い、うがいを全員で演習。
通信形式	2	
(合計時間数)	6	
通信上限時間	3	
※面接指導※	1	
使用する機器・備品等	石鹸、消毒液、うがい薬、コップ、手洗い上手	

シラバス

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
指導目標	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できるようになる。	
項目番号・項目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
① 介護保険制度	1	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度創設の背景及び目的・動向 ○ケアマネジメント ○予防重視型システムへの転換 ○地域包括支援センターの設置 ○地域包括ケアシステムの推進 ・仕組みの基礎的理解 ○保険制度としての基本的仕組み ○介護給付と種類 ○予防給付 ○要介護認定の手順 ・制度を支える財源・組織・団体の機能と役割 ○財政負担 ○指定介護サービス事業者の指定 《演習》 介護保険の理念についてグループディスカッション・発表を行う。
② 医療との連携とリハビリテーション	2	<ul style="list-style-type: none"> ○医療行為と介護 ○訪問看護 ○施設における看護と介護の役割・連携 ○リハビリテーションの理念 《演習》 介護の得意、看護の得意についてグループディスカッションを行う。
③ 障害者自立支援制度及びその他制度	0	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉制度の理念 ○障害の概念 ○ICF(国際生活機能分類) ・障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ○介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで ・個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法 ○成年後見制度 ○日常生活自立支援事業
通信形式	6	
(合計時間数)	9	
通信上限時間	7.5	
※面接指導※	1.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

シラバス

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術	
指導目標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を認識させる。	
項目番号・項目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
① 介護におけるコミュニケーション	2	<ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割 ○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 ○傾聴 ○共感の応答 ・コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ○言語的コミュニケーションの特徴 ○非言語的コミュニケーションの特徴 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ○利用者の思いを把握する ○意欲低下の要因を考える ○利用者の感情に共感する ○家族の心理的理解 ○家族へのいたわりと励まし ○信頼関係の形成 ○自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする ○アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い ・利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ○視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 ○失語症に応じたコミュニケーション技術 ○構音障害に応じたコミュニケーション技術 ○認知症に応じたコミュニケーション技術
② 介護におけるチームのコミュニケーション	2	<ul style="list-style-type: none"> ・記録における情報の共有化 ○介護における記録の意義・目的・利用者の状態を踏まえた観察と記録 ○介護に関する記録の種類 ○個別援助計画書（訪問・通所・入所・福祉用具貸与等）○ヒヤリハット報告書 ○5W1H ・報告 ○報告の留意点 ○連絡の留意点 ○相談の留意点 ・コミュニケーションを促す環境 ○会議 ○情報の共有の場 ○役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼） ○ケアカンファレンスの重要性 <p>《演習》 個別援助計画書、ヒヤリハット報告書を実際に作成する。</p>
通信形式	2	
(合計時間数)	6	
通信上限時間	3	
※面接指導※	1	

使用する機器・備品等	
------------	--

シラバス

科目番号・科目名	(6) 老化の理解	
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解させる。	
項目番号・項目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
① 老化に伴うこと からだの変化と日常	2	<ul style="list-style-type: none"> ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ○防衛反応(反射)の変化 ○喪失体験 ○身体的機能の変化と日常生活への影響、咀嚼機能の低下 ○加齢に伴う筋、骨、関節の変化 ○体温維持機能の変化 ○精神的機能の日常生活への影響 《演習》介護においての生理的側面の知識を身につけることの必要性についてグループディスカッションを行う。
② 高齢者と健康	1	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の疾病と生活上の留意点 ○骨粗鬆症と骨折 ○筋肉の低下と動き、姿勢の変化 ○関節痛 ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ○循環器障害(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患) ○循環器障害の危険因子と対策 ○老年期うつ病症状(強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症) ○誤嚥性肺炎 ○症状の小さな変化に気づく視点 ○高齢者は感染症にかかりやすい 《演習》 症状の小さな変化にどのようにすれば気づけるか、グループディスカッションを行う。
通信形式	3	
(合計時間数)	6	
通信上限時間	3	
※面接指導※	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

シラバス

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解	
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解させる。	
項目番号・項目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
① 認知症を取り巻く状況	1	・認知症ケアの理念 ○パーソンセンタードケア ○認知症ケアの理念 ○視点(できることに着目する)
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1	・認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別のケアのポイント、健康管理 ○認知症の定義 ○物忘れとの違い ○せん妄の症状 ○健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア) ○治療 ○薬物療法 ○認知症に使用される薬
③ 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	1	・認知症の人の生活障害、心理、行動の特徴 ○認知症の中核症状 ○認知症の行動・心理症状(BPSD) ○不適切なケア ○生活環境で改善 ・認知症の利用者への対応 ○様子、表情、視線、姿勢などから本人の気持ちを推察する ○プライドを傷つけない、失敗しない状況をつくる ○認知症の進行に合わせたケア ○コミュニケーションでの注意点
④ 家族への支援	1	・家族支援と介護の受容過程 ○認知症の受容過程での援助 ○介護負担の軽減(レスパイトケア) 《演習》 家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについてグループディスカッションを行う。
通信形式	2	
(合計時間数)	6	
通信上限時間	3	
※面接指導※	1	

使用する機器・備品等	
------------	--

シラバス

科目番号・科目名	(8) 障害の理解	
指導目標	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解させる。	
項目番号・項目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
① 障害の基礎的理解	0.5	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の概念とICF ○ICFの分類と医学的分類 ○ICFの考え方 ・障害者福祉の基本理念 ○ノーマライゼーションの概念
② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害 ○視覚障害 ○聴覚・平衡障害 ○音声・言語・咀嚼障害 ○肢体不自由 ○内部障害 ・知的障害 ○病理的要因と生理的要因 ・精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む） ○統合失調症 ○気分障害 ○依存症などの精神疾患 ○高次脳機能障害 ○広汎性発達障害 ○学習障害 ○注意欠陥 ○多動性障害などの発達障害 ・その他の心身の機能障害
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	0	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の心理、家族を支援 ○障害の理解・受容支援、介護負担軽減 ○障害の受容過程 ○家族支援
通信形式	1.5	
(合計時間数)	3	
通信上限時間	3	
※面接指導※	1.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

シラバス

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術	
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるようになる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等で生活を支える介護技術や知識を習得させる。 	
項目番号・項目名	時間数	講義内容・演習の実施方法

〈Ⅰ 基本的知識の学習〉

① 介護の基本的な考え方	1	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の基本視点 ○理論に基づく介護と法的根拠に基づく介護(8つの視点) 《演習》 ・理論や法的根拠に基づく介護についてグループディスカッションを行う。
② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	2	<ul style="list-style-type: none"> ・こころに関する基礎知識 ○学習と記憶の基礎知識 ○記憶の種類・ケア ○感情と意欲の基礎知識 ○老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 《演習》 人の記憶の構造や意欲等を支援に結びつけて考える方法についてグループディスカッションを行う。
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	2	<ul style="list-style-type: none"> ○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ○骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ○中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ○自律神経と内部器官に関する基礎知識 ○こころとからだを一体的に捉える ○利用者の様子の普段との違いに気づく視点 《演習》 利用者の様子の普段との違いに気づくにはどうしたらいいのかグループディスカッションを行う。
通信形式	5	
計	10	

〈Ⅱ 生活支援技術の学習〉

④ 生活と家事	4	<ul style="list-style-type: none"> ・家事と生活の理解、生活支援 ○生活歴、○自立支援 ○予防的な対応 ○主体性・能動性を引き出す ○多様な生活習慣 ○価値観 《演習》 家事援助の機能と基本的原則について、グループディスカッションを行う。 	
		通信形式	2
		計	6

使用する機器・備品等	
------------	--

シラバス

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術	
項目番号・項目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
⑤ 快適な居住環境整備と介護	3	<ul style="list-style-type: none"> ・整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ○家庭内に多い事故 ○バリアフリー ○住宅改修 ○福祉用具貸与 《演習》 家庭内に多い事故について事例を示し、グループディスカッションを行う。
⑥ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	3	<ul style="list-style-type: none"> ・整容に関する基礎知識、支援技術 ○整容行動 ○身体状況に合わせた衣服の選択、着脱(身じたく) ○洗面の意義・効果 《演習》 ・衣服着脱の介護についての演習を行う。 ・装うことや利用の意義についてグループディスカッションを行う。
⑦ 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	<ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗に関する基礎知識、臥位から端座位(寝返りから起座)、座位起立、移乗、車イスと車イス移動、歩行、褥瘡と褥瘡予防 ○移動、移動介助の基本視点 ○臥位、寝返り、起座介助 ○座位バランス ○座位バランストレーニング ○シーティング ○起立動作 ○起立困難者の特徴 ○起立介助、床からの立ち上がり ○移乗介助の具体的な方法 ○自立での車イス移乗 ○ベッド⇄車イスの移乗 ○トイレでの動作 ○車イスの名称・チェック・適合・移動介助 ○正常歩行・異常歩行・応用歩行・杖歩行 ○杖歩行介助・歩行器介助 ○杖階段昇降 ○補装具について 《演習》 移乗の介護、移乗の介護に関する演習を行う。
通信形式	1	
計	14	

使用する機器・備品等	車いす、ベッド、シーツ、枕、クッション、タオルケット、ポータブルトイレ、衣類、杖、タオル、バスタオル、アイマスク、歯ブラシ、ヘアブラシ、櫛、コップ
------------	---

シラバス

科目番号・科目名		(9) こころとからだのしくみと生活支援技術	
項目番号・項目名	時間数	講義内容・演習の実施方法	
⑧ 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	<p>・食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援</p> <p>○食事をする意義・目的 ○食事のケアに対する介護者の意識 ○低栄養の弊害</p> <p>○脱水症の弊害 ○食事と姿勢 ○咀嚼・嚥下のメカニズム</p> <p>○空腹感 ○満腹感 ○好み ○食事の環境整備(時間・場所等)</p> <p>○食事に関した福祉用具の活用と介助方法 ○口腔ケアの意義</p> <p>○誤嚥性肺炎の予防</p> <p>《演習》</p> <p>食事の介護に関連する演習を行う。</p>	
⑨ 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	<p>・入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>○入浴の意義・目的 ○羞恥心や遠慮への配慮 ○入浴介助での基本</p> <p>○室内環境の調整とお湯の温度 ○風呂場の危険 ○清拭の手順</p> <p>陰部洗浄(臥床状態での方法) ○目・鼻・耳・爪のケア ○更衣・入浴動作</p> <p>○足浴・手浴・洗髪 ○さまざまな入浴用具の活用方法</p> <p>《演習》</p> <p>入浴の介護、清潔保持に関連する演習を行う。</p>	
⑩ 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	<p>・排泄に関する基礎知識</p> <p>○排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連</p> <p>○排泄の意味 ○排泄障害が日常生活に及ぼす影響 ○おむつ使用の弊害</p> <p>○自立支援の視点 ○個別差 ○排泄ケアでの一般的注意と工夫 ○便秘に対するケア ○環境設定と福祉用具・自助具などの活用 ○排泄介助</p> <p>○陰部洗浄 ○おむつについて ○片麻痺の方の移乗介助(車イス⇄便座)</p> <p>《演習》 排泄の介護に関連する演習を行う。</p>	
計	21		

使用する機器・備品等	トロミ材、食器、ストロー、コップ、スプーン、ゼリー、車いす、ベッド、シーツ 枕、洗面器、浴槽、衣類、バスタオル、タオル、入浴剤、温度計、ゴム手袋、 歯ブラシ、綿棒、爪切り、軍手、ゴミ袋、新聞紙、ポータブルトイレ、尿取り パット、タオルケット、ヘアブラシ、櫛
------------	---

シラバス

科目番号・科目名	(9) ころとからだのしくみと生活支援技術	
項目番号・項目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
⑪ 睡眠に関したころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	・睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法 ○睡眠の意義・目的 ○意義・目的の効果を高める工夫 ○睡眠 障害、睡眠薬について ○安眠のための介護の工夫・環境整備 《演習》 実際に安楽な姿勢、褥瘡予防に関連する演習を行う。
⑫ 死にゆく人に関したころとからだのしくみと終末期介護	4	・終末期に関する基礎知識ところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うころの理解、苦痛の少ない死への支援 ○終末期ケア(ターミナルケア) ○死に至る過程 ○ターミナルケアのポイント ○介護従事者の基本的態度 ○多職種間の情報共有の必要性 《演習》 「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることが出来るように身近な素材を示し、それに対するグループディスカッションを行う。
(Ⅲ生活支援技術演習)		
⑬ 介護過程の基礎的理解	6	○介護過程の目的・意義・展開 ○介護過程とチームアプローチ
⑭ 総合生活支援技術演習	7	・事例による展開 生活の各場面での介護については、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 ○事例の提示→ころとからだの力が発揮できない要因の分析 →適切な支援技術の検討→支援技術演習 →支援技術の課題(1事例につき1.5時間程度でサイクルを実施) ○事例は高齢(要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可)から2事例を選択して実施
計	24	

通信形式	8	
(合計時間)	75	
通信上限時間	12	
※面接指導※	4	

使用する機器・備品等	トロミ材、食器、ストロー、コップ、スプーン、ゼリー、車いす、ベッド、シーツ、枕、洗面器、浴槽、衣類、バスタオル、タオル、入浴剤、温度計、ゴム手袋、歯ブラシ、綿棒、爪切り、軍手、ゴミ袋、新聞紙、ポータブルトイレ、尿取りパット、タオルケット、ヘアブラシ、櫛、体温計、血圧計、オムツ
------------	--

シラバス

科目番号・科目名	(10) 振り返り	
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習の課題の認識をはかる。	
項目番号・項目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
① 振り返り	2	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して学んだこと ○今後継続して学ぶべきこと ○根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等) 《演習》 <p>研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことについてグループディスカッションを行う。</p>
② 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に学ぶべきこと ○研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例(Off-JT, OJT)を紹介 《演習》 <p>現場職員の方、チームケアに携わる多職種の方の話を聞き、これからの介護の在り方、次のステップへの課題等について話し合う。</p>
(合計時間数)	4	

合計時間数	130	
通信形式時間	31.5	
通信上限時間	40.5	
※面接指導※	10.5	